



次世代という技術基準と知的産業という新しい現実

令和7年5月19日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

日本の半導体産業が衰退したのは、アメリカがそれを凌駕する技術基準を得たからと考えるべきである。それにおいて日本がアメリカを凌駕したいなら、アメリカに勝る技術基準において製品を提案しなくてはならない。

これら第一世代から第十世代までであるならば、視点と方針を数世代進ませその製品開発を行うことの必要性があるのである。

これらはすべての産業において同じである。これが産業の再生の手段である。技術と機能性が市場をけん引するのである。

これらは競争と市場原理におけるビジネスにおける現実である。市場をけん引するのは常にその先端性なのである。

これらは開発における新たな視点がそれらを可能とできることを理解すべきである。そしてそれら新たな開発基準と製品、サービスが市場をけん引できるのである。

またコスト基準を引き下げそれらの製品を提供できるならば、市場を占有できるのである。

これらは今日経済戦争において完全に崩壊した日本経済の再生への正しい理解であり、判断であると考える。

企業はその生き残りを自社製品において求める以外選択はないのである。

これらに対して先端性を追随することは、それに勝ることはできないのである。それにおいて経営を失った企業ははるかに多いのである。

それが真実であるならば、企業はその独創性を技術や製品サービスに対する底辺から構築される理解において、その飛躍を要求されるのである。

これらは理解基盤を飛躍的に向上させその新たな目標を要求するのである。